

川根本町 図書室だより

11月

2020年11月号

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内7コース
- TEL:0547-59-3106(文化会館)
- TEL:0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間:午前9時～午後5時
- ☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(15日)・休日の翌日(4日・24日)



- ☆ やまびこ号巡回コースは川根フォン、町のホームページでご確認いただけます。なお、年間予定表は図書室で配布しています。

PICK UP!

新 着 図 書



『東京改造計画』

堀江貴文著 幻冬舎

『夢をかなえるゾウ4』

水野敬也著 文響社

このままでは、この国も東京も終わる。【実用】文

後悔しない生き方 【自己啓発】山



ETCゲートをなくす、東京メトロと都営地下鉄を合併・民営化する、紙の教科書廃止、ネット選挙の導入、都職員の9割テレワーク化…。コロナ時代の新しい東京のカタチを緊急提言。



突然、医者に余命宣告をされ、途方に暮れる主人公のもとにガネーシャ降臨! 余命限りある中、人は夢をかなえることはできるのか? 笑って学べる成功小説、第4弾。

「世界一やさしい「やりたいこと」のを見つけ方

八木仁平著 KADOKAWA

『人生論あなたは酢ダコが好きか嫌いか』

佐藤愛子/小島慶子著 小学館

人生のモヤモヤから解放される自己理解メソッド 【実用】文

女二人の手紙のやりとり 【書簡】山

「やりたいことは運命的に出会うものではなく、体系立てて論理的に見つけるもの。

「自分探し」から脱出できると、「人間関係」「お金」「仕事」のあらゆる悩みが消える! もう迷いだらけの生活には戻らない! 自分探しを終わらせる自己理解の教科書



夫婦とは、愛とは、喧嘩とは、孤独とは、恋とは、生きるとは—いわば酢ダコのようなもの!? 悩み、愚痴、怒り。年の差50歳の真剣勝負。1923年生まれと1972年生まれの女性2人が、夫婦、世の中、人生について手紙でやり取りする。



◎ 新着図書

新刊の詳しい情報は、
【川根本町図書ネット】で検索

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>● 『海の怪』 鈴木光司 著 集英社</p> <p>船でのテレビ撮影中に現れたのは、落水して亡くなったはずの初老の男だった…。海の仲間や知人から聞いた怖い話、不思議な話。日本ホラー界の重鎮が語る、海をめぐる怪談集。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>● 『口福のレシピ』 原田ひ香 著 小学館</p> <p>駆け出し料理研究家・留希子と、老舗料理学校を営む母と祖母。相容れない両者の間に隠された秘密とは。冷や汁、生姜焼き…。心をほぐす“家庭料理”小説。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
<p>● 『タクジョ!』 小野寺史宜 著 実業之日本社</p> <p>東京都江東区内の営業所に配属された新卒のタクシードライバー・高間夏子、23歳。個性あふれる先輩や同期、そして家族に励まされながら、仕事に、恋に、全力で走り回る姿を温かく爽快な筆致で描きだす。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>● 『心淋し川』 西條奈加 著 集英社</p> <p>江戸の片隅、小さなどぶ川沿いに立ち並ぶ古い長屋。住民たちは人生という川のどん詰まりでもがいていた。懸命に生を紡ぐ人々の切なる願いが胸にしみる連作時代小説。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
<p>● 『かきあげ家族』 中島たい子 著 光文社</p> <p>スランプ中の老映画監督・中井戸八郎のもとに、長男が仕事を辞めて戻ってきた。さらに、離婚した長女が孫を連れて出戻った。家には引きこもりの次男がおり、図らずも一家集結することに。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>● 『えにし屋春秋』 あさのあつこ 著 角川春樹事務所</p> <p>浅草の油屋、利根屋の娘・お玉と、本所随一の大店の主人の見合いの前日、お玉は置手紙を残してなくなってしまふ。利根屋の命運を賭けて、奉公人・おまいが身代わりとなるが…。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
 <p>● 『あつかったらぬげばいい』 ヨシタケシンスケ 著 白泉社</p> <p>子ども、大人、おじいちゃんのさまざまな疑問に痛快に答える、ヨシタケ式心を緩める絵本。哲学的な名言も飛びだし、思わずうなります。</p>	 <p>● 『トラといっしょに』 ダイアン・ホフマイアー 文 ジェシー・ホジスン 絵 徳間書店</p> <p>トラは、夜がこわいトムを背中のにせて歩き出し…。おやすみ前の絵本。</p>
 <p>● 『とりあえず まちましよう』 五味太郎 著 絵本館</p> <p>とりあえず「まちましよう」と言ってしまう愉快なシチュエーションが盛りだくさんのユーモア絵本。</p>	 <p>● 『ありがとう、アーモ!』 オーゲ・モーラ 文 鈴木出版</p> <p>シチューのにおいをかぎつけた近所の人たちは、次々にアーモのアパートにやって来た。わかちあいの心が鮮やかに描かれた、あたたかい物語。</p>

『自分でできる子に育つほめ方叱り方』

～モンテッソーリ教育・レジョ・エミリア教育を知り尽くしたオックスフォード
児童発達学博士が語る 島村華子 著 ディスカヴァー・トゥエンティワン

「すごい！」
「よくできたね！才能あるよ！」
「さすがお兄ちゃんだね！」

子どもをほめる時、無意識的にこんな言葉をつかいがち…認めてあげるのはとても大事。それはそれでいいのだけれど…

「がんばって最後までやりきったね！」
「失敗してもあきらめなかったね！」
「いろんな方法を試したね！」
「すごく集中してがんばっていたね！」

こんな褒め方もある。それはプロセスをほめるというもの。こんな風に声をかけられたら、調子にのって大人でも伸びてしまうかも…笑

図書室スタッフS

おすすめ本

